



Taskforce on Nature-related
Financial Disclosures

**TNFD 自然関連
リスクと機会管理・
情報開示フレームワーク
ベータ版 v0.3 概要**

2022年11月

framework.tnfd.global



これは、クリエイティブ・コモンズ表示
4.0 国際ライセンスの下でライセンス付与
されています。

TNFD フレームワークの紹介

自然関連財務情報開示タスクフォース（TNFD）は、財務やビジネス面での意思決定において自然を考慮する必要性への認識が高まっていることを受けて、2021年に設立されました。TNFDは、常に変化する自然関連リスクと機会を組織が報告し行動を起こせるようにするためのリスク管理と情報開示に関するフレームワークを開発し提供することを使命とする、グローバルで市場主導型のイニシアチブです。世界の金融の流れを自然にとってマイナスの結果からプラスの結果へとシフトさせるようサポートすることを究極の目的と考えています。

これらの成果を達成するために、タスクフォースは2021年10月の第1回会合で、TNFDのリスク管理と開示フレームワークは、マテリアリティ（重要課題）に対するアプローチが選好またはニーズによるものかどうかにかかわらず、セクターや管轄区域を問わず、さまざまな規模の企業や金融機関に適用でき、利用されるべきであることを決議しました。自然の喪失を食い止め、回復させ、自然にとってプラスとなる成果を達成し、自然関連リスクを低減・管理することは、サプライチェーン全体における大企業や中小企業、あらゆる種類の金融機関が、自然関連の依存度、影響、リスク、機会をまとめて特定、評価、管理、開示して初めて可能となります。

タスクフォースは現在、TNFDフレームワークを構築する2年間のデザイン・開発フェーズの半分を終了したところです。TNFDの完全な提言（v1.0）は、2023年9月に公表される予定です。タスクフォースは、広範なナレッジパートナーやステークホルダーの支援と見解を得て、フレームワークの開発を続ける中で、次のことを目指しています。

- ISSBが開発中の新しいグローバル報告基準や、市場参加者が現在すでに使用しているベストプラクティス基準やツールとの**整合性**を促進する
- あらゆる規模や管轄区域の組織の報告書作成者および報告書利用者の選好や規制要件に適合させるために、マテリアリティに対するアプローチに関する**適応性**および柔軟性を提供する
- 自然の喪失と気候変動に統合的な方法で緊急に対処することが必要であるため、自然関連の依存度、影響、リスク、機会の報告を開始するために、企業や金融機関による**早期行動**を奨励する
- 自然関連の問題の組み込みは多くの組織にとって新しいものだが、健全なガバナンス、戦略、リスク管理、資本配分のために急速に増加している戦略的必須事項であることを認識し、時間をかけて開示**意欲**を高めるための体系的な道筋を提供する

TNFD のコンサルテーションとエンゲージメントの取り組みに関する更新内容

TNFD は、フレームワークのベータ版と草稿版をいくつかリリースして、市場参加者や専門家、その他のステークホルダーのフィードバックを得たり、パイロットテストを実施し、フレームワークの開発にインサイトや学びを取り入れるという、オープンイノベーション・アプローチを採っています。

2022 年 3 月のベータ版フレームワーク v0.1、2022 年 6 月の v0.2、2022 年 11 月のこの v0.3 のリリースに続き、タスクフォースは 2023 年 3 月にベータ版フレームワーク v0.4 をリリースし、2023 年 9 月に TNFD フレームワーク v1.0 の市場導入に向けて始動する予定です。

2023 年 3 月に、TNFD は、ベータ版フレームワーク v0.4 の完全な草案に対して組織が回答を提出できる、60 日間の公式コンサルテーションで、オープンイノベーション・プロセスを終了する予定です。タスクフォースは、2023 年 9 月の公表に向けて、寄せられたすべてのフィードバックを検討し、フレームワークを完成させる予定です。この公式コンサルテーションで寄せられたコメントレターは、国際標準化団体のアプローチに従って、TNFD のウェブサイトで開催されます。

TNFD ベータ版フレームワークについては、2023 年 9 月の TNFD フレームワークの完全な提言 (v1.0) の公表前、2023 年 6 月 1 日までフィードバックを受け付けています。v0.4 のリリースに向けたフィードバック提供の期限は 2023 年 2 月 14 日です。オンラインプラットフォーム上のフィードバックアンケートを通して提出してください。

ベータ版フレームワーク v0.3 の更新内容

TNFD ベータ版フレームワーク v0.3 は、2022 年 6 月にリリースされた v0.2 から多くの重要な修正と追加を取り入れたものです。これらの修正と追加は、タスクフォース・ワーキンググループによる継続的な調査とデザイン、および市場参加者とその他のステークホルダーからの v0.2 に対するフィードバックに基づいています。

TNFD フレームワークの主な構成要素は、下の図に示すように、ベータ版フレームワーク v0.2 から変更なく一貫したものです。タスクフォースでは、今後の更新リリースでも、これは変更されないと予想しています。

図 1：TNFD フレームワークの主な構成要素



v0.3 におけるベータ版フレームワークの最も重要な更新内容は以下の通りです。

- 開示のアプローチ、特に依存度と自然に対する影響に関する開示と、3つの新しい開示提言の提案
- 報告書作成者と利用者が、管轄区域を問わずマテリアリティと報告ニーズに対応できるよう、フレームワークを柔軟に適用するためのアプローチ案
- LEAP アプローチの使い勝手の向上
- 自然のための目標設定に関する新しいガイダンス案
- 金融機関向けの新しい開示ガイダンス案
- TNFD が提案するシナリオ分析へのアプローチと、自然関連リスク管理および開示の社会的側面に関する2つの新しい協議資料

ベータ版フレームワーク v0.3 の更新内容には、依存度と自然に対する影響の開示に関するタスクフォースの推奨するアプローチが初めて組み込まれています。

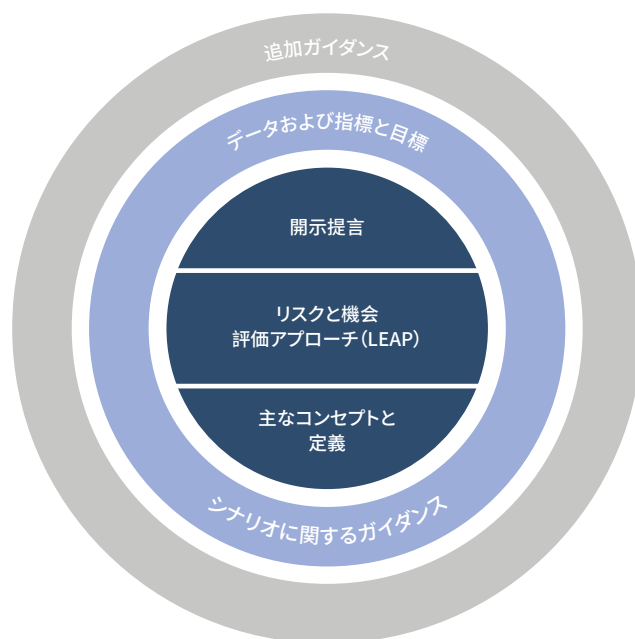


図 2：v0.3 における TNFD ベータ版フレームワークの更新内容

開示提言

- ✓ 指標と目標 B の変更
- ✓ 推奨されるいくつかの開示項目に、「リスクと機会」とともに「依存度と影響」を含めること。
- ✓ 3つの新しい開示案 - トレーサビリティ、ステークホルダー（権利保有者を含む）のエンゲージメント、気候・自然の目標の整合性に関して

LEAP アプローチ

- ✓ 企業向け「スコープ」作成ガイダンス
- ✓ 影響の軽減とプラスの影響における「診断」フェーズのガイダンスの更新
- ✓ 合理化された「評価」フェーズの構成要素とガイダンス
- ✓ 権利保有者とのエンゲージメントの認識のための文言変更

主なコンセプトと定義は、以下に関連します。

- ✓ 自然関連リスク
- ✓ 自然関連の機会
- ✓ 目標
- ✓ 改訂された開示提言と LEAP における新しい文言

追加ガイダンス

- ✓ 金融機関向け開示ガイダンス案
- ✓ セクター別および生物群系別のガイダンスへのアプローチの更新内容
- 🔍 自然関連リスク管理および開示の社会的側面に関する協議資料
- ✓ 水産養殖の仮想ケーススタディ
- ✓ ツールカタログ（オンラインプラットフォーム）
- ✓ リスクと機会の記録
- ✓ 用語集と「自然の理解」セクションの更新（オンラインプラットフォーム）

データおよび指標と目標

- ✓ 科学的根拠に基づく自然に関する目標についてのガイダンス（SBTN と共同開発）
- ✓ リスクと機会の評価指標の説明

シナリオに関するガイダンス

- 🔍 TNFD が提案するシナリオ分析のアプローチに関する協議資料

- ✓ ガイダンス案

- 🔍 協議資料

開示提言案

ベータ版フレームワークの初期バージョンで説明したように、フレームワークのデザインと開発に対するタスクフォースのアプローチは、TCFDによってすでに開発された開示アプローチおよびガイダンスに基づいて開始される予定でした。市場参加者は、TNFDへのフィードバックの中で、自然関連リスク管理と開示フレームワークの市場における早期採用をサポートし、気候と自然のどちらもカバーする統合的な持続可能性の開示への移行を支援するためには、アプローチと言語の一貫性が不可欠であることを明確に述べています。

そのため、v0.1とv0.2で説明されているように、タスクフォースは、フレームワークの構造的、連続的なデザインと開発において、TCFDガイダンスから「外へ」働きかけ、次の3つの誘導的な質問を行いました。

1. TCFDの推奨する開示項目のうち、自然の状況にうまく当てはまり、一貫性を最大化し、統合された開示をサポートするために、アプローチや言語を最小限の変更で**持ち越し**できるものはどれか？
2. TCFDの推奨する開示項目のうち、関連性は残っているものの、自然の状況に合わせて何らかの**変更**が必要なものはどれか？
3. 自然関連の依存度、影響、リスク、機会の特性を考慮すると、どのような**追加**開示がTNFDによって保証される可能性があり、検討されるべきか？

TNFDはTCFDの開示のうち、さらなる変更が必要なものを特定し、v0.2でこの変更の一部について初期ガイダンスを提供し、現在、v0.3でこの変更の他の面について、次の新たなガイダンスを提供しています。

- TCFDが重視している「気候への影響」の開示（温室効果ガス排出関連の開示）に代えて、自然に対する依存度と影響に関する開示を取り入れるために、TCFDの指標と目標Bの推奨される開示項目を変更することを提案する。これにより、TNFDの開示提言案における自然に対する依存度と影響の対象が拡大される
- 一貫性と整合性を持たせるために、他の多くの開示提言案において「リスクと機会」とともに「自然関連の依存度と影響」を追加することを提案する
- 「リスク管理」の柱のタイトルを、影響を含むようにリスクと影響の管理」などに変更することを提案する
- タスクフォースは、自然関連の依存度、影響、リスク、機会に関する特性を考慮し、新たに次の3つの開示提言を提案することが重要であると考えています。ネットゼロと自然にプラスとなる目標を同時に達成するための統合的な移行計画の重要性が高まる中での、(i) トレーサビリティ、(ii) 権利保有者を含むステークホルダーとのエンゲージメントの質、(iii) 気候と自然の目標の整合性

重要なことは、これらの追加開示案は、市場参加者による統合的な（TCFD+TNFD）持続可能性の開示に向けたさらなる動きをできるだけ早く促すという観点から、TCFDガイダンスに追加されるものであるとタスクフォースは考えているということです。

図 3：TNFD の開示提言の改訂案

TNFD 自然関連情報開示提言 (v0.3)

ガバナンス	戦略	リスクと影響の管理	指標と目標
<p>自然関連の依存度、影響、リスク、機会に関する組織のガバナンスを開示する。</p>	<p>自然関連リスクと機会が、組織の事業、戦略、財務計画に与える実際および潜在的な影響を、そのような情報が重要である場合に開示する。</p>	<p>組織が、自然関連の依存度、影響、リスク、機会をどのように特定、評価、管理しているかを開示する。</p>	<p>自然関連の依存度、影響、リスク、機会を評価し管理するために使用される指標と目標を開示する（かかる情報が重要である場合）。</p>
<p>推奨された開示</p> <p>A. 自然関連の依存度、影響、リスク、機会に関する取締役会の監視について説明する。</p> <p>B. 自然関連の依存度、影響、リスク、機会の評価と管理における経営者の役割について説明する。</p>	<p>推奨された開示</p> <p>A. 組織が短期、中期、長期にわたって特定した、自然関連の依存度、影響、リスク、機会について説明する。</p> <p>B. 自然関連リスクと機会が、組織の事業、戦略、財務計画に与える影響について説明する。</p> <p>C. 様々なシナリオを考慮しながら、組織の戦略のレジリエンスについて説明する。</p> <p>D. 完全性の低い生態系、重要性の高い生態系、または水ストレスのある地域との組織の相互作用について説明する。</p>	<p>推奨された開示</p> <p>A. 自然関連の依存度、影響、リスク、機会を特定し、評価するための組織のプロセスを説明する。</p> <p>B. 自然関連の依存度、影響、リスク、機会を管理するための組織のプロセスを説明する。</p> <p>C. 自然関連リスクの特定、評価、管理のプロセスが、組織全体のリスク管理にどのように組み込まれているかについて説明する。</p> <p>D. 自然関連の依存度、影響、リスク、機会を生み出す可能性のある、価値創造に使用される見解の情報源を特定するための組織のアプローチを説明する。</p> <p>E. 自然関連の依存度、影響、リスク、機会に対する評価と対応において、権利保有者を含むステークホルダーが、組織にどのように関与しているかを説明する。</p>	<p>推奨された開示</p> <p>A. 組織が戦略およびリスク管理プロセスに沿って、自然関連リスクと機会を評価し管理するために使用している指標を開示する。</p> <p>B. 直接、上流、そして必要に応じて下流の依存度と自然に対する影響を評価し管理するために組織が使用する指標を開示する。</p> <p>C. 組織が自然関連の依存度、影響、リスク、機会を管理するために使用している目標と、目標に対するパフォーマンスを説明する。</p> <p>D. 自然と気候に関する目標がどのように整合され、互いに貢献し合っているか、またトレードオフがあるかどうかを説明する。</p>

注：TNFD は、推奨される開示項目の採用に向けて適応性のあるアプローチを開発しており、このアプローチは、TNFD 採用のベースラインを構成する「中核となる」開示と、開示「強化」を表す追加の開示提言とを区別する可能性が高いと思われます。

ベータ版フレームワーク v0.4 では、TNFD は2つの開示提言を実施するために、開示指標に関する2つの「付録」を作成する予定です。

- 指標と目標 A（付録 1 - 自然関連リスクと機会に関する指標に関連するもの）
- 指標と目標 B（付録 2 - 自然に対する影響と依存度に関する指標に関連するもの）

タスクフォースは、付録 2 の影響の要因に関する指標が以下により構成されることを提案します。

- 自然に対するプラスとマイナスの影響の要因を反映させるために適応される、自然変化の5つの要因：陸／海／淡水の利用の変化、気候変動、資源利用／補充、汚染／汚染除去、侵略的外来種の導入／除去
- 4つの領域（海、淡水、陸、大気）

ベータ版フレームワーク v0.3 の一部として、タスクフォースは、金融機関向けの追加開示ガイダンスの草案と、金融機関向けの評価・開示指標の例も公表しており、これには詳細情報へのリンク付きの例が含まれています。

マテリアリティに対するアプローチ

タスクフォースは、市場参加者が実際に適用するフレームワークの開発者として、TNFD フレームワークは、さまざまな規模、セクター、管轄区域の企業や金融機関が、マテリアリティに対するアプローチの選好やニーズに関係なく適用でき利用すべきであるというデザイン上の基本原則に従っています。

このベータ版フレームワーク v0.3 の更新内容に含まれる修正と追加（自然に対する依存度と影響に関する新しい開示案を含む）は、この原則に適合しています。TNFD ベータ版フレームワーク v0.3 は、先にリリースされたリスクと機会に関する開示案と合わせて、現在、さまざまな報告書作成者の選好やコンプライアンス要件をサポートする推奨される開示項目の全範囲を提供しています。

2023 年 9 月に市場導入に向けてリリースされる TNFD 開示提言の適用と普及を促進するために、タスクフォースは、TNFD 開示提言の適応可能な適用を奨励するメカニズムに取り組んでいます。これにより、市場参加者はフレームワーク v1.0 がリリースされるとすぐに開示を開始し、時間の経過とともに開示意图を高めていくことができます。推奨される開示項目の採用に対するこの適応可能なアプローチは、TNFD 採用のベースラインを構成する「中核となる」開示と、開示「強化」を表す追加の開示提言とを区別する可能性が高いと思われます。

完全な範囲の開示提言と適応可能なアプリケーションアプローチの組み合わせは、このフレームワークが、あらゆる企業や金融機関にとって適切で使いやすいものであり、マテリアリティに対するアプローチのさまざまな選好・ニーズに対応し、時間の経過とともに開示意图を高めることができるように、デザインされています。

タスクフォースは、TNFD フレームワークは、さまざまな規模、セクター、管轄区域の企業や金融機関が、マテリアリティに対するアプローチの選好やニーズに関係なく適用でき利用すべきであるというデザイン上の基本原則に従っています。

ベータ版フレームワーク v0.1 および v0.2 に示されているように、TNFD フレームワークは、ISSB が策定している新しいグローバル基準と、特定の管轄区域のアプローチや個々の作成者の希望（これらの要件を超える場合がある）を満たすために適用できるようにデザインされています。

リスクと機会を評価するための LEAP アプローチ

LEAP アプローチの市場からのフィードバックと継続的なパイロットテストに基づき、ベータ版フレームワーク v0.3 は、企業や金融機関が LEAP を既存の事業またはポートフォリオのリスク管理システムに組み入れることができるようにすることを究極の目的として、合理的な LEAP アプローチを定めています。すでに 130 以上の機関が LEAP アプローチを含むベータ版フレームワークをパイロットテストしており、46 のパイロット機関がその経験に基づくフィードバックを TNFD に提供しています。

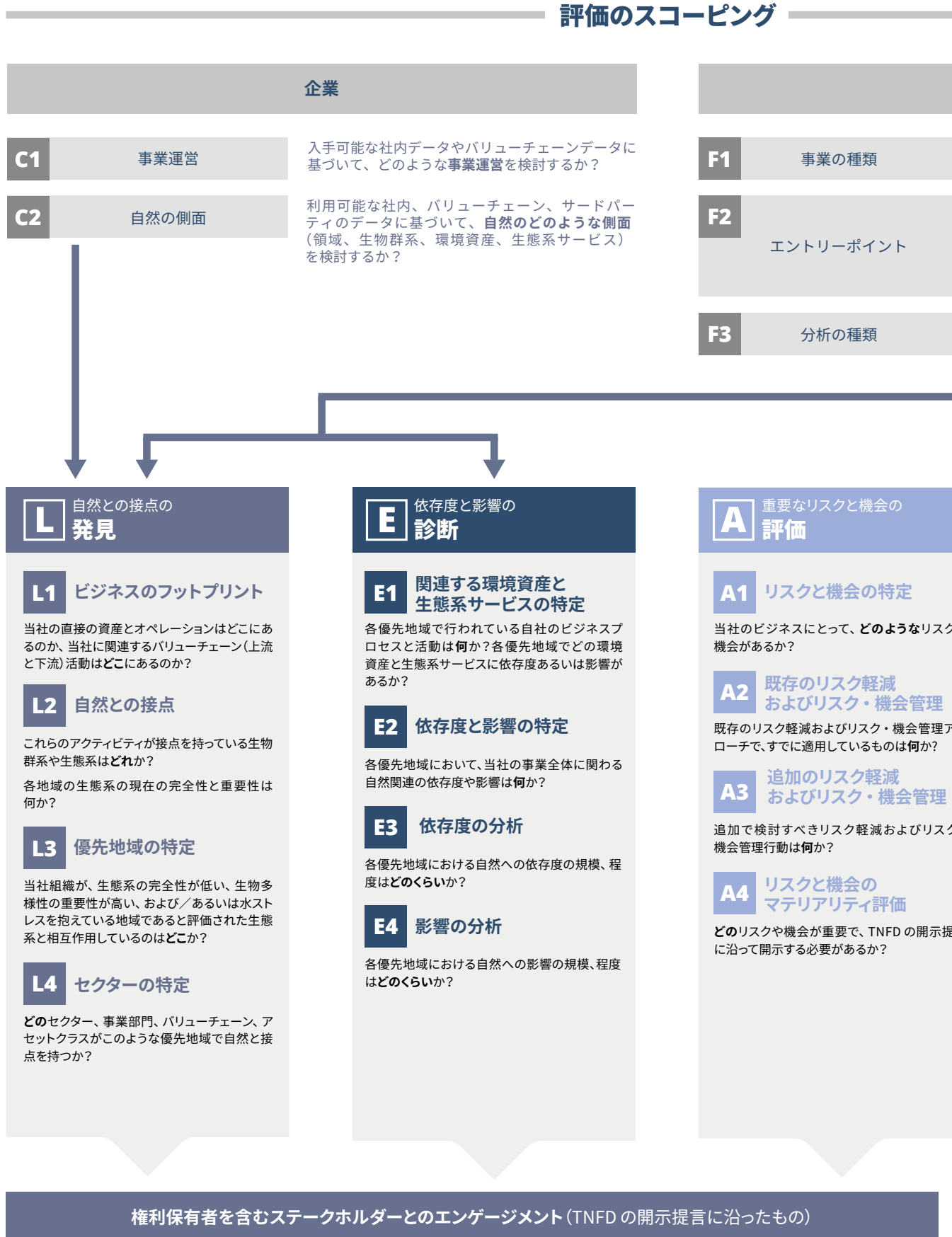
このフィードバックに基づき、この v0.3 のリリースでは、更新された LEAP アプローチには、次の 4 つの主要な改訂点があります。

- **評価の範囲設定**：評価の範囲設定に関するガイダンスで、LEAP フェーズを使用した分析を開始する前の範囲設定の重要性を反映した、企業向けの範囲設定に関する質問を含む。これは、先に公表された金融機関向けの範囲設定ガイダンス（v0.2 では LEAP-FI と呼ばれる）と共に、企業向けに明確にされたものです
- **診断フェーズ**：影響の軽減とプラスの影響に関する新しいガイダンスで、IPBES の 5 つの変化要因の適応を軸に、組織が自然に対するプラスとマイナスの影響を特定、評価、管理できるようにしたもの
- **評価フェーズ**：
 - LEAP 評価フェーズ全体にリスクとともに機会を組み入れ、LEAP 「A5」の従来の単独の機会特定構成要素を廃止することにより、**評価フェーズの 5 つの構成要素を 4 つに統合する**
 - 自然関連リスクと機会の評価のための LEAP の **評価フェーズに関する新しいガイダンス案**
- **ステークホルダー・エンゲージメントの特徴の更新**：他のタイプのステークホルダーとは異なる、権利保有者との間で必要となる可能性のあるエンゲージメントアプローチおよび要件を反映するために、文言が「権利保有者を含むステークホルダーとのエンゲージメント」に更新されました（2023 年 3 月にリリースする v0.4 の追加ガイダンスで詳述される予定）

さらに、タスクフォースは、以下を公表しました。

- LEAP の全フェーズをカバーする水産養殖セクターの仮想ケーススタディ
- LEAP アプローチの各フェーズを適用するために組織が使用できるツールの概要を提供する新しいツールカタログも、オンライン TNFD フレームワーク・プラットフォームを通して利用できるようになったこと
- LEAP の評価フェーズで組織が使用できる、リスクおよび機会の記録

図 4：TNFD のリスク・機会評価アプローチ（LEAP）の改訂版



金融機関

金融機関としての事業内容は？事業内の主な機能単位は？

資金を配分しているのはどのセクター／地域か？

どの資産クラス／金融商品があるのか、またそれが自然と関わりうる接点は？

自社の金融活動はどの生物群系／生態系とどのように接点を持つのか？

金融商品とサービスの集約レベルからして、ビジネスにとってどの程度の評価が実施可能／適切なのか？

P 対応し報告するための準備

戦略とリソース配分

P1 戦略とリソース配分

この分析の結果、下すべき戦略とリソース配分の決定は何か？

P2 パフォーマンス測定

どのように目標を設定し進捗度を定義・測定するのか？

開示アクション

P3 報告

TNFD 開示提案に沿って、何を開示するのか？

P4 公表

自然に関する開示はどこで、どのように提示するのか？

見直しと繰り返し

指標と目標へのアプローチ

指標

このベータ版フレームワークの v0.3 において、タスクフォースは LEAP の評価フェーズ（リスク・機会評価）に必要な測定アプローチを定め、自然関連リスクと機会の全カテゴリーについて指標の例示を提供します。

測定アプローチでは、次の 2 種類の評価指標を導入しています：

1. LEAP の診断フェーズで特定された自然関連の依存度と影響に基づく**暴露指標**（優先度の高い依存度と影響の診断）
2. 自然関連リスクと機会が組織に与える財務的影響を評価するために使用できる、**大きさの指標**。大きさの指標は、自然関連リスクと機会を優先するための基準の一部として使用される必要があります。これは、LEAP の最終準備フェーズ（対応し報告するための準備）における戦略、リスク管理、資本配分、開示決定を構成するものです

目標

v0.2 で示された初期の検討事項に基づいて、また、すでに広く使用されているか、開発中のベストプラクティスの方法やフレームワークを構築して取り入れるというタスクフォースのコミットメントと整合するように、v0.3 では、科学的根拠に基づく目標ネットワーク（SBTN）によって開発中の方法に基づく目標設定のガイダンスが含まれています。

SBTN と共同で作成された「科学的根拠に基づく自然に関する目標の企業向け追加ガイダンス案」は、SBTN が開発した科学的根拠に基づく自然に関する目標を設定するための 5 段階アプローチを取り入れています。TNFD ベータ版フレームワークは、関連する SBTN ガイダンスの概要を提供し、詳細については SBTN 文書を参照するように案内しています。TNFD の目標設定に関するガイダンスは、SBTN がその方法とガイダンスのさらなる更新をリリースした際に、同時更新される予定です。

TNFD フレームワークを適用する企業が、自然に対する影響に関する目標を設定し、その目標に対するパフォーマンスを測定する場合、TNFD は SBTN のガイダンスに従って、科学的根拠に基づく自然に関する目標を設定することを推奨しています。組織が目標設定に別のアプローチを取ることを決めた場合、TNFD は、目標設定が SBTN により使用される科学的根拠に基づく目標の基本原則に従うことを強く推奨します。

セクター別、領域別、生物群系別の追加ガイダンス

タスクフォースは、組織による TNFD フレームワークの解釈と実施を支援するために、セクター別、生物群系別の追加ガイダンスを作成しています。v0.3 でリリースされた「金融機関向け追加ガイダンス案」に加え、現在、ナレッジパートナーや関連業界専門家、他の科学専門家、フォーラムメンバーからの意見を取り入れ、さらなる追加ガイダンスを作成中です。現在作成中のこの追加ガイダンスは、以下を対象としています。

- 農業、食品
- 漁業、水産養殖
- 林業、紙・パルプ
- 鉱業、金属
- エネルギー（石油・ガス、再生可能エネルギー）
- 熱帯雨林、その他の生物群系

追加ガイダンスは、タスクフォースによって v0.4 のリリースの一部として、また、場合によっては、市場参加者が検討し、タスクフォースにフィードバックを提供する時間を与えるために、より早い段階でコメント用にリリースされます。

TNFD は、2023 年 9 月に完全な TNFD フレームワーク v1.0 を発表する前に、LEAP と TNFD の開示提言を優先セクターと生物群系でどのように実施するかについて、定期的に公表する追加ガイダンスを引き続き作成します。

シナリオへのアプローチ

TCFDと同様に、TNFDも、相互に関連した複雑な不確実性を組織が乗り越えるために、シナリオ分析が有用であることを認識しています。シナリオ分析により、組織は、気候変動や自然の喪失がもたらす可能性のある結果、政府、市場、社会の対応、これらの不確実性がビジネス戦略や財務計画に与える影響を検討することができます。

そこで、タスクフォースは、ベータ版フレームワークのv0.3とともに、TNFDが提案するシナリオ分析のアプローチに関する協議資料を公表することにしました。この協議資料では、TNFDフレームワークの適用をサポートするために、シナリオとシナリオ分析の使用アプローチ案を示しています。TNFDは、自然を大気や気候系を含むものと定義し、既存のTCFDに沿った市場慣行やマクロプルーデンスでの気候シナリオの利用を基礎としているため、TNFDは、気候や自然に関する検討事項を統合したシナリオ分析へのアプローチを目指しています。

タスクフォースは、シナリオ分析への提案アプローチに関する市場参加者からのフィードバックを期待しています。2023年3月にリリースされるv0.4ベータ版では、パイロットテストを実施し、シナリオに関するガイダンス案を発行する予定です。

自然関連リスク評価と開示の社会的側面へのアプローチ

タスクフォースは、組織の自然に対する影響と依存度は場所によって異なり、社会や地域コミュニティと密接に関係していることを認識し、自然関連リスク管理と開示の社会的側面についても検討しています。先住民族・地域コミュニティ（IPLC）のリーダーとの初期の話し合いとそこからのフィードバック、ならびにさまざまな市民社会団体とのエンゲージメントに基づき、タスクフォースはLEAPアプローチと開示提言案にいくつかの修正と追加を行いました。また、「自然関連リスク管理と開示の社会的側面 - TNFDフレームワークへの検討事項」についての協議資料も公表しています。

この協議資料では、これまでに寄せられたフィードバックを概説し、TNFDのフレームワークに関連する重要かつ相互に関連する社会的側面を示しています。タスクフォースは、これらの側面をTNFDフレームワークにどのように組み込むかを検討し続けるため、これらに関するさらなる見解を期待しています。権利保有者を含むステークホルダーとのエンゲージメントに関する追加ガイダンス案は、2023年3月のv0.4リリースに予定されています。

タスクフォースは、自然関連リスク管理および開示の社会的側面をTNFDフレームワークにどのように組み込むかを検討し続けるため、これらに関するさらなる見解を期待しています。

主なコンセプトと定義

上記の強化や追加、市場参加者からのフィードバックに基づき、TNFD はコンセプト、定義、カテゴリーを更新し、新たに追加しました。現在、これらはすべて、TNFD フレームワークのオンラインプラットフォームの「市場参加者のための自然の理解」セクションに記載され、更新されており、最新の用語解説に追加されています。

今後のフレームワーク開発における優先分野

TNFD は、市場参加者からの継続的なフィードバックやパイロットテストからのインサイトなど、タスクフォースによる追加的な調査や協議に基づいて、ベータ版フレームワークを引き続き開発する予定です。タスクフォースは、2023 年 3 月のベータ版フレームワーク v0.4 を、2023 年 6 月 1 日の期限とパイロットテストの終了までに市場参加者がフィードバックを提供できるよう、完全かつ理解しやすいものを目指しています。

v0.4 のリリースに先立ち、タスクフォースはフレームワーク開発の次のフェーズで以下に最優先で取り組みます。

- 指標と目標に関する追加ガイダンス、特にタスクフォースが提案する開示指標と、評価指標に関する追加詳細
- サプライチェーン全体における依存度、影響、リスク、機会の測定に関する追加ガイダンス（気候報告の文脈から「スコープ」のコンセプトを TNFD が適応したもの）
- 目標設定に関するさらなるガイダンスを SBTN などとともに作成
- 自然の 4 つの領域における優先セクターと生物群系に関する追加ガイダンス案のリリース
- 金融システムグリーン化ネットワーク（NGFS）を含む、さまざまなナレッジパートナーの協力の下、この v0.3 リリースの一部として発行されたシナリオ協議資料からのフィードバックに基づいて作成された、シナリオに関するガイダンス案
- この v0.3 リリースの一部として発行された社会的配慮に関する協議資料へのフィードバックに基づいて作成された、権利保有者を含むステークホルダーとのエンゲージメントに関するガイダンス案
- 非金融・金融セクターにおける TNFD フレームワークの例示的な開示を含む、例示的なユースケース、ケーススタディ、例の公表

積極的な関与 – TNFD フレームワークの共同作成

市場参加者およびその他のステークホルダーの皆さんには、TNFD より以下をお願いします。

- **レビューとフィードバックの提供**：TNFD オンラインプラットフォームでベータ版フレームワークの最新版を確認し、フィードバックフォームに記入してください
- **ベータ版フレームワークのパイロットテスト**：TNFD フレームワークが自組織の特定の状況にどのように適用されるのか確認を希望する企業や金融機関は、個々に、また場合によっては業界グループでフレームワークのパイロットテストを実施することができます。ベータ版 v0.2 と併せてリリースされた TNFD パイロット実施ガイドには、フレームワークの試験的導入に関心がある組織向けの詳細情報が記載されています
- **協議への参加**：市場参加者から提供されたフィードバックに基づき、TNFD は新たに提起された主要テーマ、フレームワークの技術分野について話し合う、あるいは地域別、セクター別のフォーカスグループ・ディスカッションの場を設け、フィードバック提供者と連携を図ります

TNFD のオープンコンサルテーションの期間は 2023 年 6 月 1 日まで続きます。フィードバックは随時受け付けますが、順次更新されていくベータ版フレームワークに対するフィードバックは、下記に示すスケジュールに沿って評価されます。2023 年 9 月に最終提言が発表されるまでに、提供の時期を問わず、すべてのフィードバックが検討・評価されます。

表：リリース日程と、各リリースに先立つフィードバックの提出期限

リリース	リリース日	このリリースへのフィードバック締切日
v0.1	2022 年 3 月 15 日	
v0.2	2022 年 6 月 28 日	
v0.3	2022 年 11 月	2023 年 2 月 14 日
v0.4	2023 年 3 月	2023 年 6 月 1 日
v1.0 (最終版)	2023 年 9 月	

ボックス：TNFD のオープンイノベーション・プロセス

TNFD は、広範囲の国やセクターの市場参加者、さまざまなステークホルダーや権利保有者からのフィードバックを収集するために、引き続き、コンサルテーションとエンゲージメントの構築に取り組みます。

パイロットテスト

現在、約 130 の組織が TNFD ベータ版フレームワークのデザイン、実施、またはパイロットテストを完了し、それぞれの組織の状況への適用を検討しています。独立したパイロットテストに加え、以下の TNFD のパイロットプログラム・パートナーを通してパイロットテストを実施している組織もあります。フランス開発庁 (AFD)、Global Canopy、アフリカ自然資本金融連合 (ANCA) を通じた FSD Africa、国際金属鉱業・評議会 (ICMM)、国連環境計画・金融イニシアティブ (UNEP-FI)、持続可能な開発のための世界経済人会議 (WBCSD)。

市民社会、先住民族・地域コミュニティとのエンゲージメント

市民社会団体や先住民族、地域コミュニティ (IPLC) の声や見解が TNFD フレームワークのデザイン・開発に組み込まれるよう、TNFD は国際自然保護連合 (IUCN) と提携し、IUCN の世界的なネットワークや関係を通して幅広い先住民族・地域コミュニティとの関わりを持つようにしています。TNFD は、5 大陸の IPLC リーダーや組織、さまざまな市民社会団体と隔月で会合を持ち、ベータ版フレームワークに関するフィードバックを収集しています。

地域・国別コンサルテーショングループ

特に関心の高い市場に対する働きかけとエンゲージメントを強化するために、国または地域レベルで TNFD コンサルテーショングループ が設立されました。コンサルテーショングループへの参加は、その管轄区域の TNFD フォーラムのすべての機関会員に開かれています。現在、オーストラリア・ニュージーランド、ブラジル、コロンビア、フランス、インド、日本、オランダ、スイス、英国にコンサルテーショングループが設置されています。コンサルテーショングループは、開発中の TNFD フレームワークの認知度を高め、ビジネスと金融における今後の採用について、国や地域別に対話を行うためのプラットフォームを提供することを目的としています。

自然関連データカタリスト

2022年3月に発表された [TNFD のデータ&アナリティクス協議資料](#)に基づいて、TNFD は2022年7月に自然関連データカタリストを確立しました。データカタリストは、自然関連データ全体において自然関連データの提供者を含む、さまざまな市場参加者を招集します。データカタリストの目標は、自然関連データの現状における欠点に取り組み、自然関連データ、分析、ツールを特定し、その開発（およびアクセス）を奨励することです。最終的な目標は、TNFD フレームワークの採用の容易さ、スピード、規模を向上させることです。自然関連データカタリストは、現在100名を超える会員を擁しています。





www.tnfd.global